

児童養護施設に勤務する看護師の実態調査—第1報— — 看護師が専門性をいかして働くために必要な要素 —

木村 智一¹、塩飽 仁¹、鈴木 祐子¹、相墨 生恵²、井上 由紀子^{1,3}、名古屋 祐子^{1,4}

¹東北大学大学院医学系研究科、²岩手県立大学、³東北大学病院看護部、⁴宮城県立こども病院看護部

【はじめに】

近年、児童養護施設には被虐待児や発達障害児など対応困難な児童の入所が増加している。また、日常的な健康管理や疾病管理を必要とする児童の入所も継続的にある。そういった状況をふまえ、厚生労働省は児童養護施設への看護師配置を推進している。乳児院や保育所などに勤務する看護師は、看護師の立場や役割が曖昧であることや十分なサポート体制がないまま専門性をいかしきれていない現状があるとわかっている。遅れて看護師配置が進められてきた児童養護施設においても類似する状況がある可能性がある。しかし、児童養護施設に勤務する看護師の調査は実施されておらず、現状が把握されていない。

【目的】

児童養護施設に勤務する看護師の考えや思いから現状と課題を把握し、児童養護施設において看護師が専門性をいかして働くために必要な要素を検討する。

【方法】

自記式質問紙調査を実施した。

【対象】

2013年4月時点で、日本国内の児童養護施設589施設において看護に従事するため専任で働く看護師とした。

【期間】2013年5月から7月

【質問内容】

はじめに、看護師に対する役割の提示に関して、「文書で伝えられている」「口頭で伝えられている」「任されている」で回答を求めた。さらに、看護師と福祉職が協力のもと仕事に取り組むことができているか「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4件法で回答を求めた。また、児童養護施設に勤務する看護師の現状と課題を把握するため、看護師が児童養護施設に勤務することに関する考えや思いについて、自由記述で回答を求めた。

【分析方法】

役割を提示されているかどうか、福祉職と協力して仕事に取り組むことができているかどうかについては、単純集計し、割合を算出した。看護師が施設に勤務することについての考えや思いに関する自由記述については、Berelsonの内容分析に準拠して分析した。小児看護経験者8名による合議でカテゴリ、サブカテゴリの信用性を確保した。

【倫理的配慮】

本研究は、東北大学大学院医学系研究科倫理委員会の承認を得て実施した。施設長に協力依頼文書を郵送し、施設としての許可を得た後、対象者に調査目的、方法、調査への協力は自由であり、協力しなくとも不利益は生じないことを文書で説明した。その上で、調査協力に同意する場合

れた質問紙の提出をもって、調査協力への同意とみなした。

【結果】

看護師67名から回答を得た。年齢は、平均48.1±10.9歳で50歳から59歳が最も多かった。現在勤務している施設での勤務年数は、平均5.0±6.5年で5年未満が最も多かった。性別は、男性2名(3.0%)、女性64名(95.5%)であり、勤務形態は、常勤56名(83.6%)、非常勤9名(13.4%)であった。

1. 看護師に対する役割の提示

「文書で伝えられている」31名(46.3%)、「口頭で伝えられている」23名(34.3%)、「任されている」11名(16.4%)であった。

2. 看護師と福祉職の協力体制

「とてもそう思う」36名(53.7%)、「ややそう思う」28名(41.8%)であった。

3. 児童養護施設に勤務することに関する考えや思い

看護師59名(88.1%)から得られた自由記述の回答について内容分析した結果、241コード、42サブカテゴリ、18カテゴリが生成された。カテゴリは[]で示し、[健康管理全般を専門的に行える][子どもをサポートするために福祉職と協力、連携する必要がある][福祉職のサポートができる][一人職では大変であるため複数いるとよい][他職種との違いや必要性を感じることができていない][労働条件はあまりよくない][児童養護施設に必要な知識や技術を補う必要がある][看護師の意見や立場が弱い][看護師のための研修や情報共有の場が少ない][子ども達に合わせて個別に対応していく][対応の難しい子どもがいる][手探り状態で仕事をしていかななくてはならない][必要なことである][子どもや職員の安心につながる][関係機関や家族との連携がスムーズになる][多くの専門職がいることは子どもにとってよいことである][施設長の考え方しだいである][覚悟が必要である]であった。

【考察】

児童養護施設に勤務する看護師が専門性をいかして働くためには、看護師と福祉職の協力が重要であると考えられる。そのためまず、看護師は児童養護施設の現状を理解し、児童養護施設の子供達への対応技術などを習得し、看護師間で情報共有できる環境が必要である。また、児童養護施設に勤務する看護師の立場や役割を明確にすることが重要である。児童養護施設で働くための知識や技術を得ることで、専門性を発揮するための土台ができ、さらに看護師だからこそ求められる役割を明確にすることで、自信を持って役割を果たすことができると考える。

謝辞 本調査は、NPO 法人 福島県の児童養護施設の子供の健康を考える会共同代表の澤田和美先生、丸 光恵先生とともに実施いたしました。調査の企画においては、児童養護施設青葉学園園長の神戸信行先生ならびに児童養護施設福島愛育園園長の齋藤久夫先生にご助言とご指導を賜りました。また調査実施に際しては、全国児童養護施設協議会前会長の加賀美尤祥先生にご支援いただきました。先生方には衷心よりお礼申し上げます。そして調査にご協力いただきました全国の児童養護施設の皆様に厚くお礼を申し上げます。

出典 本稿は、2014年7月20日に東京で開催された、日本小児看護学会第24回学術集会で口演発表した抄録を電子化したものである。